

10月31日(金) 9:30-11:55

司会：廣田 良浩(ワイドヴィル)

◆特別講演

「 混迷深まる世界情勢における半導体・装置・電子部品市場見通し 」



株式会社産業タイムズ社
大阪支局 支局長
電子デバイス産業新聞 副編集長
中村 剛

[講演要旨]

米国の関税施策により世界経済は不透明感を増している。半導体市場は引き続き生成 AI が牽引して高い伸びを示し、自動車市場は一時的な落ち込みはありながらも総じて電動化・自動運転化により高機能化が続いている。生成 AI の進化では半導体製造装置の貢献も目立ち、日本メーカーにはチャンスがある。半面、中国メーカーの急激な追い上げや米国施策による投資シフトなど不安要素も出てきている。これらしじょうの動向と今後の見通しについて、最新の取材に基づきお伝えする。

[講演者プロフィール]

2008年10月、株式会社産業タイムズ社に入社。半導体産業新聞(当時)編集部記者として、関西及び東海、中国四国の半導体デバイス、電子部品、製造装置、電子材料、電池、新エネルギー分野の取材に幅広く従事。15年に電子デバイス産業新聞としてリニューアルした後は取材対象を自動車、医療、ロボットなどのアプリケーション分野にも広げる。21年7月、同紙副編集長に就任。23年1月より産業タイムズ社大阪支局長を兼務。

◆特別講演

「 グローバル市場動向と注目すべき半導体市場の今後の見通し(仮題) 」



インフォマインテリジェンス合同会社
シニアコンサルティングディレクター
南川 明

[講演要旨]

[講演者プロフィール]

1958 年 12 月 6 日生

インフォマインテリジェンス合同会社 シニアコンサルティングディレクター

2019 年 8 月 英 Informa へ統合され OMDIA ブランドで活動

2016 年 7 月 IHS と Markit 統合で IHS Markit に社名変更

2012 年 12 月 IHS グローバル株式会社に社名変更

2010 年 11 月 米 IHS の傘下に入り、IHS グローバル株式会社となる

2006 年 12 月 米アイサプライ社と合併

2004 年 7 月 株式会社データガレージ設立

2003/4-2004/2 クレディーリヨネ証券会社 調査部

テクノロジーヘッド&シニア・アナリスト

2000/6-2003/4 WestLB 証券会社 調査部 ディレクター & シニア・アナリスト

1996/1-2000/5 IDC Japan 株式会社 ディレクター

1990/5-1995/12 ガートナー ジャパン株式会社 データクエスト 半導体産業分析部

シニアアナリスト

1982/4-1990/5 モトローラ株式会社/HongKong Motorola Marketing specialist

1982/3 武蔵工業大学 電気工学科卒業 自動制御専攻

JEITA では 20 年間に渡り、世界の電子機器と半導体中長期展望委員会の中心アナリストとして従事する。定期的に台湾主催の半導体シンポジウムで講演を行うなどアジアでの調査・コンサルティングを強化してきた。特許庁の自動車用特許の技術審査委員、半導体関連特許審査委員。NEDO の「FeRAM 製造技術の開発」研究評価委員。

講演活動 & 執筆活動

JEITA、電子デバイス産業新聞、SEMI Japan、NEDIA、SEAJ などのセミナーで定期的に講師として講演を行っている。その他、メディアでも記事の執筆や TV 出演などの広報活動も精力的に行う。

◆特別講演

「テクノロジーハードウェア業界見通し：スマホなど完成品・AI サーバー需要見通し、FPD や CMOS センサなど部品視点も」



みずほ証券株式会社

エクイティ調査部

グローバル・ヘッド・オブ・テクノロジー・リサーチ

シニアアナリスト

中根 康夫

[講演要旨]

緩やかな回復局面に入ったと思いきや関税という冷や水を浴びている PC やスマホなどコンシューマ完成品。一方で、ハイパースケーラーの積極投資に支えられ需要急増の AI サーバー。26 年に向けた需要の見方、潜在的なアップサイドやダウンサイドリスクは何か？押さえておくべき技術変化やトレンドは何か？完成品・AI サーバーの業界を、地域、技術、バリューチェーン、ブランドなど様々な軸で業界全体の分析、今後の予想を行う。

[講演者プロフィール]

1991 年 4 月、大和総研入社。未上場企業・ベンチャー企業のアナリスト業務に従事。

1995 年より、台湾にて、台湾・中国のエレクトロニクス業界を担当。

2001 年よりドイツ証券にて民生エレクトロニクス・FPD・アジアのエレクトロニクス業界を担当。

2015 年 8 月よりみずほ証券にてグローバル・ヘッド・オブ・テクノロジー・リサーチ兼シニア・アナリストとなり、現在に至る。
